

舞鶴商工会議所青年部で田中社長が講演

## (株)パシフィックウエーブ 世界進出へ “起業プラン”を米国で披露



“パシフィックウエーブ”を語る田中啓介社長

去る1月20日の読売新聞に「米起業挑戦権府内2社 パシフィックウエーブ」という記事が、カラー写真とともに掲載されました。その後も地元紙での紹介やFMラジオにも出演されるなど、(株)パシフィックウエーブの田中啓介社長は、「今、時の人」と言えるのでないでしょうか。このような中、2月9日に舞鶴商工会議所青年部の講演会で、ご自身の人生哲学や自ら開発されたマットレス等の素材「ジェルترون」、さらに、今後の事業展開などについて、様々なお話を披露されました。ここでは、田中社長のご了承を得て、講演会を中心に「経営の理念」などについて、概要を掲載させていただきます。

田中社長のお話には、経済界はもとより、学術をはじめ、法曹関係、スポーツ界、芸能界などの著名な方々が、深い関わりのある人物として次々登場してきます。

### 《堀場氏と永守氏に直訴》

例えば、平成27年3月、「ジェルترون」について、京都市から強く頼まれて参加した「ベンチャー起業目利き委員会」の審査で、空気が抜ける音がクレームだとして、最高判定にはなりませんでした。

「ジェルترون」は、既に京都府中小企業技術大賞や近畿経済産業局長賞などを獲得した実績がありました。製品に対し絶対の自信がある田中社長は、“次点”となった結果に関して、審査会当日欠席された委員長の堀場雅夫氏（故人－当時、(株)堀場製作所最高顧問）と主要委員であった永守重信氏（日本電産(株)CEO）に毛筆で直訴。

その結果、5月に堀場氏、7月には永守氏とそれぞれ個別面談が実現し、魂を込め説明されたところ「両氏から、審査結果への疑念とともに、製品の良さを分かってもらった上に、激励を受けたことは忘れられない出来事」と話されました。

特に、入院中だった堀場氏にはジェルترونのベッドを納入。その後、堀場氏は亡くなられたものの「ご本人に床ずれが起こることもなく、家族ともども喜んでいる、との趣旨の連絡があった」ということでした。

### 《家具店を承継せず良い睡眠を探求》

田中社長は、昭和55年に「年商10億円の家具販売業を継ぐことよりも、米国留学時の経験や“良い睡眠”との出会いから、新しいビジネスとしてベッド分野への参入」を決意。以来、家具店を整理する一方で、様々な衝突や時には妨害を受けることもあったものの、多くの人々に支えられながら、ほぼ単独で製品化に取り組みられました。そして“床ずれ”を防止し回復にも寄与する新素材の「ジェルترون」が完成したのです。

### 《次へのステップ》

今、田中社長は、世界を視野に次へのステップを目指されています。

「素材として『ジェルترون』の汎用性は高く、福祉分野や自動車の座席等への活用も見込まれることから、量産化を当面の課題」とされています。本稿冒頭の新聞記事もその一環で、製造工程の自動化へ、新たな出資者を募るためのものでした。

昨年11月17日、この大会の予選となる京都府大会「けいはんなベンチャーチャンピオンシップ」に参加し優勝。そして、1月19日の精華町で行われた大会が、府代表として“起業プラン”を発表する全国コンテストで、ここでの成績優秀者が、米国のニューヨーク市で行われる「外国人投資家400人にプランの発表機会を獲得する場」でした。結果は報道にもあった準優勝され日本代表となりました。

### 《米国でプレゼンテーション》

田中社長の発表は、2月15日ニューヨーク市のロックフェラー財団ビルで行われ、「ジェルترون」は多くの投資家から高い関心を集めるとともに、日本側関係者の話として最高評価を受けたということです。投資家との具体的な交渉等は今後のことになる、とのことですが「自動化に必要な資金を確保し、舞鶴市を拠点とする企業として世界を目指していきたい」と意気込みを語られています。

“世界へ羽ばたく舞鶴の企業”として、舞鶴の経済関係者はもとより、市民の期待も大きくなる中、舞鶴商工会議所としても組織を挙げて可能な限りの協力をしていくことにしています。